

Bethel Hospice Center Japan

ホスピスだより

tender loving care vol.18



(お花：ボランティア 福家 馨子)

松山ベテル病院ホスピス病棟

〒790-0833

松山市祝谷6丁目1229番地

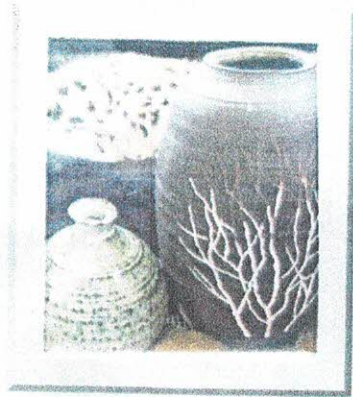
TEL 089(925)5000

FAX 089(925)5599

ホームページ <http://www.bethel.or.jp/>



医療法人 聖愛会
松山ベテル病院



陶芸ボランティア再見

陶工 松尾 幸弘

松尾幸弘 展

～人生70年の軌跡 2016～ より

私が、ベテル病院で陶芸のボランティアをはじめて、もう10年になります。10年ひとむかしと言いますが、月日の過ぎるのは早いものです。きっかけは、当病院の益田医師からの電話でした。「松尾さん、うちの病院で陶芸のボランティアやってもらえませんか」そんな電話だったように記憶しています。

この間に会った患者さんは、500名を超えていると思いますが、2年間ぐらい続いた人もいれば、たった1回で終わった人もいました。

患者さんは、陶芸を楽しむことだけでなく、中には家族へのメッセージとして残す作品もありました。手に力が入らない患者さんが、土を触り、何とか作ろうとします。その思いを少しでもかなえようと、私も懸命になりました。

その人は、それが最後の作品となりました。あとで「どんな思いで土をさわったのだろう」と思い、「一期一会」の意味を教えられた気がしました。

こうして10年にわたる、月1回の陶芸ボランティアを経験する中で、陶芸に対する私の考え方は変わってきました。それまでは、手ほどきを「教える」ということでしたが、この経験から、それぞれの人生を歩んできた患者さんの思いにどう応え、作品にしていくかになりました。陶芸が、私と患者さんとの共同作業になりました。

だから、余計な先入観をもたないようにし、患者さんとの出会いに「向かい合う」姿勢をとります。

患者さんが作られた作品は、翌日工房に持ち帰り、ゴツイところを削り、乾かし、素焼きして釉薬をかけ、本焼きに入ります。一緒に他の作品も合わせて釉薬付けしますが、それだけの作業でも窯に入れるまで、約4時間かかります。

焼き物は何かと手間のかかる作業が多いのです。けれども不思議と苦痛になりません。その人の思いを早くかなえたいと言う気持ちがさせるのでしょうか、不思議です。

また、手助けしてくれるチャプレンの中村さんや見守る看護師さんの優しい笑顔が、患者さんの雰囲気や和らげてくれます。

他の作品もありますので、出来るだけ早く焼き上げるように心掛けていますが、それでも患者さんの中には、自分が作った作品を見ずに逝かれるケースもあります。

また、出来上がった作品が、患者さんの手元に届き、見違えるようになって喜ばれたことを看護師さんから聞いた時、私も嬉しくなりました。

こうして「世界で一つだけ」の作品が、ベテル病院からも生まれます。みんなから「先生」と言われますが、本当に教えられるのは私なのです。



ボランティア募集しています！！

病室へのティーサービスにご奉仕くださる方、病棟のお花やベランダの園芸のお世話をしてくださる方、チャペルでのレクリエーションにご協力くださる方等々。
※「聖愛会ボランティア説明会」(無料)の受講が必要です。心身ともに健康な方で、定期的・継続的に活動いただける方の問い合わせをお待ちしております。

TEL : (089) 925-5000 FAX : (089) 925-5599 E-mail : volunteer@bethel.or.jp
(ボランティア委員会 担当：森)



ホスピス献金をお願いします！！

ホスピス献金は、ホスピス病棟や難病病棟の援助等、(医)聖愛会の諸活動の援助の為に(医)聖愛会に寄付として頂いております。

皆様方の暖かいご支援をお願い申し上げます。

★現金送金★

〒790-0833 松山市祝谷6丁目1229番地
松山ベテル後援会(松山ベテル病院内)

★郵便振替口座★

口座番号：01610-2-25364 名義：松山ベテル後援会

※「ホスピス献金」として献げる旨と「金額」をご記入ください。

編集後記

今年は、リオオリンピックが開催されました。選手は4年に一度の一瞬に全精力を注ぎ、一つのことに純粋に向かい合い輝いていました。ホスピスでは、日々尊い命の輝きを見せてくれます。毎日、今を大切にしなければいけないと痛感しています。

編集委員 坪田・松井・藤田・戸田